

第44回やまぐち眼科フォーラムのご案内

謹 啓

先生方におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、この度、下記の要領にて第44回やまぐち眼科フォーラムを開催する運びとなりました。

万障お繰り合わせの上、ご出席賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

謹 白

【日時】2026年1月24日(土) 17:00~19:00

※尚、フォーラム終了後に山口県眼科医会臨時総会を開催いたします

【会場】湯田温泉ユウベルホテル松政

山口市湯田温泉3丁目5-8

※ホテル松政、湯の街パーキングの駐車場が満車の場合には、近隣の駐車場をご利用ください

【会費】3,000円 ※会場にてお弁当をご用意しております

※この事業は日本眼科医会専門医制度に認定されています。(認定事業番号：申請中)

認定範囲：山口県の眼科医師および山口県眼科医会に所属の医師

プログラム

《特別講演Ⅰ》 17:00~18:00

座長：山口県眼科医会 会長

大西眼科 院長 大西 徹 先生

『 緑内障難症例とその対策：よりよい視機能維持のために 』

演者：金沢大学医薬保健研究域医学系眼科学

教授 東出 朋巳 先生

《特別講演Ⅱ》 18:00~19:00

座長：山口大学大学院医学系研究科 眼科学

教授 木村 和博 先生

『 眼科ウイルス感染症の最前線：診断と治療の最新エビデンス 』

演者：鳥取大学医学部視覚病態学

教授 宮崎 大 先生

金沢大学医薬保健研究域医学系眼科学 教授 東出 朋巳 先生

1990年 金沢大学医学部 卒業
1992年 マイアミ大学 バスコムパルマー眼研究所 研究員
1996年 金沢大学医学部附属病院眼科 助手
2006年 金沢大学医学部附属病院眼科 講師
2010年 金沢大学医学部附属病院眼科 病院臨床教授
2022年 金沢大学医薬保健研究域医学系眼科学 准教授
2025年 金沢大学医薬保健研究域医学系眼科学 教授

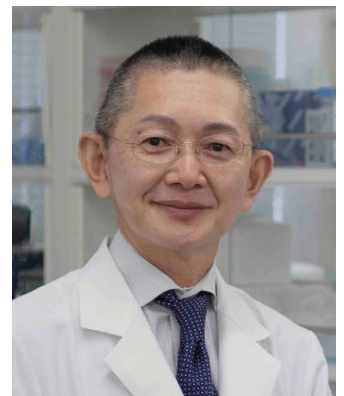


『 緑内障難症例とその対策：よりよい視機能維持のために 』

緑内障は年々増加傾向にあり、2030年には世界の患者数が約1億人に達すると予想されています。日本でも成人中途失明原因として緑内障は増加の一途であり、最近の調査では全体の4割を占めています。そのため、失明リスクの高い難症例が次々と紹介されてきます。例えば、初診時すでに視野障害や高眼圧が著しい症例、治療抵抗性あるいは合併症のある症例、低眼圧にもかかわらず進行の止まらない症例、他の眼疾患や全身疾患が問題となる症例など症例毎に様々な難しさがあります。これらの症例に対して適切に診断・治療することが、よりよい視機能を維持し緑内障による失明を防ぐために重要です。近年、緑内障点眼薬や手術術式の選択肢が増えてきました。そのため難症例に対する治療戦略も変化しています。これまでに経験した難症例を呈示し問題点や対策、経過観察から得られた知見などを共有したいと思います。

鳥取大学医学部視覚病態学 教授 宮崎 大 先生

1989年 大阪大学医学部卒業
1990年 松山赤十字病院眼科
1992年 大阪厚生年金病院眼科
1997年 Schepens Eye Research Institute, Harvard Medical School, Boston, Research fellow
2001年 市立池田病院眼科
2002年 鳥取大学眼科助手
2004年 鳥取大学眼科講師
2018年 鳥取大学視覚病態学准教授
2022年 鳥取大学視覚病態学教授



『 眼科ウイルス感染症の最前線：診断と治療の最新エビデンス 』

眼科領域におけるウイルス感染症は、単なる角膜炎にとどまらず、二次性緑内障、ぶどう膜炎、角膜内皮炎など、多彩な疾患の原因となる。診療ガイドラインには標準的な治療指針が示されているものの、実臨床における診断や治療は必ずしも容易ではない。特に、ウイルスの直接的な増殖による病態か、あるいは宿主免疫反応によるものかを見極めることは、治療方針の決定において重要な分岐点となる。

治療を考える際には、病原体の種類や増殖速度、患者の免疫状態、基礎疾患、さらにはステロイド使用の影響など、数多くの因子が複雑に関与し、多様な合併症や再発を引き起こし得る。近年は、PCRをはじめとする分子生物学的診断法の普及や新規抗ウイルス薬の開発が進み、診療の幅は広がっている。一方で、耐性ウイルスの出現や治療法の最適化といった未解決の課題も多く残されている。

本講演では、最新のエビデンスと診断・治療の進歩を整理しつつ、典型例から難治例までの実例を交えて、現場で直面する課題とその対応策を考察したい。